

# 第9回総合大会指定課題一覧

## 課題・応募数



総合大会は「ひらがな・かきかたコンクール」「全国学生書写書道展」「全国硬筆コンクール」とも課題は指定されます。学生展には席書と公募の部がありますが、両部とも共通の指定課題です。

応募数は1人1点ですが、学生展公募の部では、同じ課題でも用紙の大きさ（半紙、八ツ切、半切、地域指定用紙）が違えば1人3点まで応募できます。地域指定用紙とは、都道府県の大会などで独自に使用が求められている八ツ切のことです。この地域指定用紙での八ツ切出品も可能です。硬筆コンクールでは書体が違えば中学生は2点、高校生以上は3点応募できます。（その他実施要項ご参照）

### <仮名遣い>

句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。

## ひらがな難易度表、評価の観点表を大事に

今回は特に語句的な共通テーマは設けませんが、留意したいこととして「ひらがな難易度表」、「評価の観点表」に注目することを大事な目的にしましたこの2つの表は、書文協が考案した自慢のものです。

ひらがなは、漢字の草書体を字源として日本が生み出した文字で、漢字かな交じりの日本語の6割以上を占めている、と言われます。その書き方の難しさはそれぞれに違います。ひらがなを順次覚えていくチャートとして作られたのが「ひらがな難易度表」です。

「評価の観点表」は、止め・はね・払いなど、覚えて欲しい書写書道のルールを50の項目にまとめたものです。検定やコンクールで出されてきた作品を、この評価の観点に照らして審査します。この指定課題の評価の観点はどこか、は公開されます。ともすれば書写書道作品の審査過程は明らかにされないブラックボックスとされてきました。単に「上手い、下手」の漠然とした評価でなく、評価されたポイントを知ることによって書写書道は学びの道筋を得ます。

課題の言葉をきっかけに、教室で先生と生徒さんの間で語り合われることを期待します。この解説は主に指導者を対象に書かれています。課題の解説は一覧の末尾に記しました。参考にしてください。

## 用紙・表記上の注意

- (イ) 硬筆は書文協製作の「硬筆共通清書用紙」（検定、大会共通）で出品してください。共通清書用紙は学年ごとに①（5字1行、年長以下）、②（6字3行、小1・2）、③（7字5行、小3・4）、④（罫線5行、小5・6）、⑤（罫線6行、中学）⑥（白地、高校以上）の6種類があります。1枚12円（100枚以上注文は15%引き）。書文協本部にお求めください。
- (ロ) 漢字は学習指導要領の学年別漢字配当に従っています。ただ、総合大会は年度前半大会であることから前学年までの漢字使用を原則とします。ごく一部、当該学年配当の漢字が使われています。
- (ハ) 漢字・仮名遣い、句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。

## 参考手本、評価の観点はホームページで発表

今大会は例年より締め切りが遅くなっています。これに従い、参考手本は、3コンクールとも6月中旬にホームページにて発表されます。評価の観点も7月下旬までにホームページ上で発表されます。

手本通りに書かなくてはいけないということではありません。流派を超えた審査が書文協の理念です。止め、はね、払いや点画など、身に付けなくてはいけないルール、技術をしっかりと手本から読み取ってください。指定された大きさの用紙に書く際の文字の配置、配列も手本を参考にしてください。技法、ルールのポイントを指定課題文言にそってまとめた「評価の観点」も参考にしてください。

書文協ホームページに掲載された手本をダウンロードして使用するのは自由です。手本は発売もされます。

## 印刷手本の販売も※金額は税抜き価格

参考手本（毛筆はA3判、硬筆は共通清書用紙による原寸大）は希望者に発売します。手本は1枚当たり毛筆97円、硬筆は37円。幼稚園・保育園・学校単位での応募は、応募者1人手本と清書用紙2枚を無料とします。送料はご負担ください。

# — ここに注意 —

## ひらがな難易度表

ひらがな難易度順一覧

レベル										
A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	こ	り	つ	し	く	へ	い	と	て	ろ
B	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	う	そ	に	ち	ら	の	さ	け	た	せ
	21	22	23	24	25	26				
	よ	や	ん	ひ	お	え				
C	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
	す	る	か	き	み	は	も	ま	ふ	ゆ
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	め	わ	ほ	れ	ね	な	を	ぬ	あ	む

## ひらがなを順序良く学ぼう

ひらがなは漢字を音だけで使った万葉仮名からできました。対象の漢字を極端に草書化したもので、日本で生まれた文字・ひらがなの字源は草書体の漢字なのです。

現代では46文字が使われています。これらについて、書き易さをいくつかの点から数値化して順に並べたものが「ひらがな難易度表」です。主なポイントは①何筆で書くか②折れ、折り返し、曲り、そり、接し方、交わり方などがどの程度か③書く人の感覚、などです。これらを数値化して順位を付けました。

この結果、一番易しいのは「こ」、最も易しくないのは「む」となります。

筆数は2筆でも、幼児がジグザグの線の練習から直ぐかけてしまうのが「こ」、難しい曲りや交わりのある「む」はまことに書き難いわけなのです。難易度表に従って学んでいくことが大切です。

## 評価の観点表

認定級位		年 月 課題 番	書 写 書 道 硬 筆 課 題 検 定 ( 新 硬 筆 検 定)																													
10級 (はじめてのえんぴつNo.1~4)	9級 (はじめてのえんぴつNo.5~6)																															
8級 (はじめてのえんぴつNo.7~10)		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">課題合格《印》</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">合格 チェック</div>																													
7級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 1 課題No.1~8)																																
6級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 2 課題No.9~16)																																
5級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 3 課題No.17~24)																																
4級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 4 課題No.25~32)																																
3級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 5 課題No.33~40)																																
2級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 6 課題No.41~44)																																
1級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 6 課題No.45~48)																																
30	29			28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	評価の観点 (番号と内容)
3つの部分の組み立て方 配置・配列 点画のつながり 用紙と文字の大きさ 書く速さ 筆順と字形 漢字と仮名の大きさ 筆圧 組み立て方 句読点・かぎ 画と画の間・等間隔など 中心 外形 濁点・半濁点及び拗音・促音の小さな文字 そり 点 縦画・縦線 横画・横線 筆順 交わり方 接し方 曲がり 折り返し 折れ あき・広い・狭いなど 方向 長さ はねる 払う 止める																																

一般社団法人日本書字文化協会

## 確かな学びを続けるために

上記の「評価の観点」表は、書写書道を学ぶ上で覚えておきたい基本的なルールを 50 項目にまとめたものです。掲載した表は前半の 30 項目です。ルールには、止め・はね・はらい、長さ、方向、あき、配置・配列などがあります。作品の審査は、これらの観点に沿って行われているのですが、審査過程は公開されないのが普通で、書写書道の審査は「ブラックボックス」(暗室)の中と言われがちです。評価の観点は、この暗室の中が可視化できるように書文協が決めたものです。

コンクールでは、その課題文のどこに注意して書けばよいか、逆に言えば、どこが審査のポイントなのか、評価の観点が書文協ホームページで公表されます。新硬筆検定では、評価の観点表にチェックを入れて、ワンポイント添削された検定受験作品とともに返却されます。評価の観点が一定水準に達してないと、検定は不合格となります。確かな足取りで学び続けるために「評価の観点」は不可欠です。

# 課題集

◆大会課題は、先に発表した「ひらがな・かきかたコンクール」を除き過去の大会の好評だった課題から選抜しました。学校授業が変則であるなど、大会練習時間の確保が大変だと思いますが、書塾の指導をできる限り受けるなどして大会にチャレンジしてください。指導の先生方も以前に手掛けられた課題ばかりなので、余裕をもってご指導ください。

## <ひらがな・かきかたコンクール>

年少・年中	こい
年 長	つくし
小 1	とりのこえ
小 2	きれいなはなをみる。
小 3	よるのそらに、まんげつがあかるい。

□ 清書用紙は、年少・年中・年長は用紙①、小1、小2年生は用紙②、小3は用紙③

## <全国学生書写書道展>

年少・年中	く
年 長	つる
小 1	いろり
小 2	ふみきる
小 3	米づくり
小 4	生け花
小 5	里山の秋
小 6	育む友情
中 1	春夏秋冬
中 2	中央突破
中 3	百代の過客
高校・漢字	山青花欲然
高校・仮名	まり投げて 見たき広場や 春の草
大学・漢字	花間宿鳥振朝露 柳外帰牛帶夕陽
大学・仮名	秋の田の かりほの庵に 苔をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ

□ 席書は中学生までは八ツ切、高校以上は半切

□ 公募は半紙、八ツ切、半切、地域指定用紙

◆ 書体：幼・小学生＝楷書、中学＝楷書・行書、高校・大学＝自由

## <硬筆コンクール>

- 年少・中 さくら
- 年 長 もちつき
- 小 1 おはぎをたくさんたべました。
- 小 2 だいこくさまにたすけられた白うさぎ
- 小 3 おうえん合せんを声がかれるまでしました。
- 小 4 うちあぐる ボールは高く 雲に入りて  
また落ち来る 人の手の中に
- 小 5 日本は手書き文字を大事にします。  
文字で正しく、分かりやすく伝える書写、  
文字の形に注目した書道。共に大切です。
- 小 6 小諸なる 古城のほとり 雲白く 遊子悲しむ  
緑なす はこべはもえず 若草も しくによしなし
- 中学生 勉強と部活の両立が難しい。そこに書写書道の学びをどう入れるか。  
悩んだ末に私が出した結論は、全力を尽くして、結果を受けれる。  
それが成長につながる。
- 高校生以上 いづれの御時にか、女御更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際には  
あらぬが、優れて時めきたまふありけり。源氏物語「桐壺」より
- 清書用紙は、年少・中、年長は用紙①、小1,小2年は用紙②、小3,小4年は用紙③、  
小5,小6年は用紙④、中学は用紙⑤、高校以上は用紙⑥
- ◆ 書体：幼・小学生＝楷書、中学生＝楷書・行書で2点まで出品可。  
高校生以上＝楷書・行書・草書で3点まで出品可。

## 課題解説

### <学生書写書道展>

#### ◆中2

中央突破は、闘い方の一つ。敵陣の真ん中を突き破る

#### ◆中3

百代の過客は、盛唐の杜甫と並び称せられる同時代の詩人・李白の「それ天地は万物の逆旅にして光陰は百代の過客（かかく）なり」という句による

#### ◆高校・漢字

## 山青花欲然

唐代の詩人。杜甫（とほ）の「絶句」の一節です。

全文の和訳は「江（こう）碧（みどり）にして 鳥（とり）逾（いよいよ）よ白く  
山（やま）青（あお）くして 花（はな）然（も）えんと欲（ほつ）す 今春  
（こんしゅん） 看（みすみす）又（また）過（す）ぐ 何（いず）れの日か  
是（こ）れ帰る年（とし）ならん」。咲き誇る花も、故郷を思う目には寂しく  
映ったのでしょうか。

### ◆高校・仮名

まり投げて 見たき広場や 春の草

明治の俳人・歌人、正岡子規（全国硬筆コンクールの小 4 参照）の作。  
子規は野球を愛し、句も多い。夏草や ベースボールの人遠し

### ◆大学・漢字

花間宿鳥振朝露 柳外帰牛帯夕陽

夏目漱石の漢詩です。花間の宿鳥 朝露を振るい 柳外の帰牛 夕陽を帯ぶ  
昨夜から花かげに宿っていた鳥が、朝露をふるい落として飛び立つ。柳の向こ  
うを夕日を背に受けた牛が帰っていく。のどかな農村の朝夕。日本の原風景です

### ◆大学・仮名

秋の田の かりほの庵の 苔をあらみ わが衣手は 露にぬれつ

百人一首の一番歌。詠み手は天智天皇 苔（とま）をあらみ＝苔（むしろ）の網目  
があらいで

## <全国硬筆コンクール>

### ◆小 4

うちあぐる ボールは高く 雲に入りて また落ち来る 人の手の中に

正岡子規（学生展の高校・仮名参照）は野球を愛した。課題の情景、感覚はよく分かる。  
「歌よみに与ふる書」などで短歌革新に努めた。創刊した俳句雑誌「ホトトギス」は有名。

### ◆小 6

小諸なる 古城のほとり 雲白く遊子悲しむ 緑なす はこべはもえず  
若草も しくによしなし

明治から昭和前期ま活躍した詩人、島崎藤村の「千曲川旅情の歌」の冒頭の一節。フ  
ァンは多い。「5・7、5・7・・・」の5・7調は、日本を代表する韻律（いんりつ、言葉の  
調子）。小諸城は長野県小諸市にある。「遊子」は、旅人の意味。ここでは島崎藤村本人。  
「はこべ」は、ナデシコ科ハコベ属の植物。「淡雪」とは、春先のうっすらと積もって消  
えやすい雪のこと。

### ◆高校以上

源氏物語「桐壺」の冒頭です。口語訳は以下の通り

どの天皇の時代であつたでしょうか、女御や更衣がたくさん（天皇に）  
お仕え申し上げていらっしやつた中に、それほど高貴な身分ではない方で、  
際だって帝のご寵愛を受けていらっしやる方がいました。